

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



色あざやかな高山植物が黄土高原の夏をいろどる。カラマツソウの優しい白にホッとする

Contents

- 第15回会員総会報告 P 2
- 運営懇談会へ参加のお願い P 2
- シンポジウム『霊丘自然植物園の10年』抄録 P 3
- 春の労組ワーキングツアー報告 P 6

2009.7

128

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

第15回会員総会の報告

6月13日、大阪市立弁天町市民学習センター講堂にて、緑の地球ネットワーク第15回会員総会が開かれました。会員620名/団体のうち出席者数49名、書面による決議への参加281名、委任状提出97名、合計427名で総会が成立しました。

【議事】

2008年度事業・決算・監査報告とその承認、2009年度事業計画と予算の提案と承認、定款改定の提案と承認、新役員承認がおこなわれました。

定款の変更については、会員総会前にお送りした提案書のとおりですが、主な点を簡単に記しておきます。

1. 会の活動とその種類について

現行の「環境の保全を図る活動」「国



際協力の活動」に、新たに「災害救援活動」「子どもの健全育成を図る活動」を付け加えました。それにともない、「環境保全に必要な地域の自立・安定を人材育成を支援する事業」を、事業の種類に加えました。森林の回復と環境改善のためには、その地域の自立・安定や人材の育成が不可欠であり、それを支援する活動が必要なためです。

2. 総会の定足数及び議決について

総会に出席できない会員の表決・委任の方法として、電磁的方法を付け加えました。08年12月の新公益法人制度施行にともない、法的にもそのような方法が認められたので、定款に定めることにしました。

3. 役員の数と任期について

世話人の定数を、現行の「13名～18名」から「9名～18名」とし、任期を2年としました。毎年の会員総会で人事を問題にする負担を避けて、運営を安定させるためです。

これらの改定は、大阪府の認証後に有効となります。

新役員は次のとおりです。なお、宮下利江さん、八木文二さんが世話人を退任しました。

【第15期役員】

○代表 立花吉茂

○副代表 有元幹明/川島和義

○監査 池場道明/早草晋

○事務局長 高見邦雄

○会計 太田房子

○世話人 会田伸子/石倉英一/上田信/小畑勝裕/白川洋二/末吉真/竹中隆/巽良生/東川貴子/藤沼潤一/干場革治/前川宏/松永光平/宮崎いずみ/向川郁郎/村松弘一/山永ユカリ

○顧問 石原忠一/小川真/桜井尚武/遠田宏/前中久行

昨年実施したskypeでのインターネット中継は、会場の条件がととのわず今年には実施できませんでしたが、希望があれば来年以降も実施を追求します。

【懇親会】

場所を変えて食事とお酒をまじえた懇親会となりました。こじんまりとした会場で29名が参加し、談笑を楽しみました。

運営懇談会へ参加のお願い

6月の会員総会で緑の地球ネットワークに「運営懇談会」(仮称)を設けることを決めたところ、さっそく手をあげてくださる方がありました。ありがたいことです。

私たちの活動も18年目にはいり、できること、できないことが、読めるようになります。それから認定NPO法人になったり、さまざまな助成をえたりすると、規則にしばられることも多くなります。もちろん悪いことだけではないんですけど、当初のみずみずしさや夢が薄くなってきたのも事実だと思います。

そこで緑の地球ネットワークの活動を支えてきていただいた方たちに参加していただいて、やりたいこと、すべきこと、希望や夢を自由に語りあって、

新しい緑の地球ネットワークの道筋を探したいと思います。

会員総会と1年間の反対にある11月頃に、毎年集まりをもちたいと思います。大阪だけでなく、できれば東京でも開催したいと思います。開かれた集まりですが、同時に〇〇委員(〇〇も委員も未定です。この秋の最初の集まりで決めます)として固定したメンバーも決めたいと思います。

そのほかに、メーリングリストなどで日常的な意見交換も実現したいと思います。ぜひ、多くのかたが名乗りをあげてくださるようお願いいたします。GEN事務所までご連絡ください。

夏のワーキングツアー中止について
新型インフルエンザに関して、中国

政府は厳しい警戒体制をしいています。GENの黄土高原ワーキングツアーは大同市総工会という公の機関が受け入れであるため、今回、この警戒体制にひっかかってしまい延期を要請されました。現状では延期しても実施できる見込みがたたないため、残念ながら中止を決定しました。楽しみにしてくださった方には大変申し訳ありません。来春には無事実施できるよう願うばかりです。

新スタッフの紹介

GEN会員・協力者の皆さま、はじめまして。会田さんの後任として新しく参りました河本公子と申します。

中国の吉林省と上海は生活したことがあるのですが、大同と大阪は初めてです。皆さまにいろいろとご指導いただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

霊丘自然植物園の10年

～構想とこれまでの成果～

シンポジウム報告



6月13日、会員総会に先立ち開かれた記念シンポジウムでは立花吉茂さん（GEN代表・花園大学客員教授）、前中久行さん（GEN顧問・大阪府立大学大学院教授）、高見邦雄 GEN事務局長があつく語りました。なお、今春、「南天門自然植物園」という新名称（愛称）が提案され、シンポジウムでも2つの名称が使われたのですが、本稿では霊丘自然植物園に統一しました。

【高見】 今日はこの霊丘自然植物園がはじまった経緯と現状、今後について話していきたいと思います。

●発足の経緯

植物園は大同市の一番南にあります。95年、立花先生に代表になっていただくときに、植物園を作るんだらつつきあうと言っていた。それから条件がととのって地元の技術者たちに候補地探しと周囲の植生調査を頼んだのが97年の末です。98年になって霊丘県の李向東が一抱え以上の木があると行ってきまして。とても信じられないと行ってみると、ナラ、トネリコ、カバ、クルミなんかの自然林がありました。何度も切られたあとがあって、最後に切られてから20数年かかって再生してきた。谷底にはたしかに一抱え以上の木がありました。

その近くの山で、86haの100年間の使用権を取得して、99年の4月から植物園づくりをスタートしました。

一番高いところが南天門、1,316.8mあります。高低差があって地形が複雑なところが多種類を育てるにはいいと立花先生に言われましたが、実際にやってみて効果的だったと実感しています。

ここに決めたのは、下の方にわき水があって、その水が使えるのが最大の魅力だったんです。上までは登らずに決めたんですが、99年の4月に登ってみると、ほとんど何も生えていません。



99年、ほとんど何も生えていなかった

北向きの日陰斜面には草や樹木が多少あって、なかには比較的大きな、といっても、3mないぐらいのものがちよろちと生えているところがありました。

●放牧、柴刈りの排除

あとでわかったんですが、10年に1回ぐらい切られて燃料に使われる状態が長く続いていたんです。一番上にはヒツジの通り道があった。周囲の村と、ここでは放牧をしない、柴刈りをしないと約束をしてもらって、管理棟を建てて、何人が常駐して自然林から種を集めてきて植えるということをはじめました。

●種集めに四苦八苦

種を集めるのが大変でした。どんぐりがいつ熟するかもわからない。木になってる青いのを集めても意味がないし、下に落ちたらリスなんかにはすぐ食べられる。何度も自然林に通って200kgぐらい集めた。次はどうやって保存するか。乾かないようにビニールにくるんで、環境林センターの地下室にしまったんですが、99年の秋はなかなか気温が下がりませんでした。私が冬にいてあけてみるとぷ～んとい匂いがする。アルコール発酵してたんです。初期はなかなか苦労しました。日本から専門家のみなさんにも通って指導していただきました。

●良い循環に

去年の夏にはずいぶん茂ってきて、見た目ではすっかり様変わりしました。

落ち葉が溜まって腐葉土ができ、土を肥やして木が育ってまた葉っぱを落とすといういい循環に入りつつあると感じています。日向斜面の方が植物が少ないのは、乾燥もあるのですが、植物がなくなって長いので、土が流されてしまっている、水もない。それが大きな原因だと思います。

南斜面で比較的茂っているところは、

灌木状に育つトネリコとニンジンボク、この2種類が中心です。太行山脈では、南斜面には植物がないのが普通なのに、ここはよく茂っている方です。

日陰斜面のナラはずっとリョウトウナラとばかり思っていました。去年の夏になってモンゴリナラがまざっていることがわかりました。また、まだ木の本体は確認していませんが、今年の3月になってカシワの落ち葉を見つけました。だいたいどのぐらいの樹種があるのか見当をつけるために植物標本作りをやりたいと思っています。

前中先生から、去年の3月、9月、今年の3月にやった調査の結果を中心に報告していただきます。

【前中】 私もこの植物園には楽しみながら関わっています。少し長期的な視点で見ようと調査をはじめたので、その結果について話をします。

●継続調査の開始

99年に放牧と柴の採取をやめて植生の回復がはじまりました。南面の植栽をしないところにも植生が回復はじめています。地域の植物生産力を知るために、潜在力を見極めて大同でどのような森林が成立するのかを見極めること、もうひとつ、植生回復の過程を記録しておくこと。これらの分析と評価にもとづいて活動をしたいと、08年の3月から霊丘自然植物園で植生の長期継続調査をはじめました。調査対象は、日陰斜面、これはナラ類が自然に生えているところ、それから日向斜面、トネリコ属の低木の林がなりたっている、この2か所に調査枠をもうけました。

日陰斜面がプロット1 (P1)、日向斜面がP2、それぞれ20m × 20mの調査枠をもうけて、そこにある胸高直径1.5cm以上の樹木すべてに番号札をつけて区別しました。第1回の測定で、1本1本の樹高と胸高(1.2m)直径をはかり

ました。08年の夏にサンプル木調査をしました。09年の春、調査枠の第2回の測定をしました。

●サンプル木調査

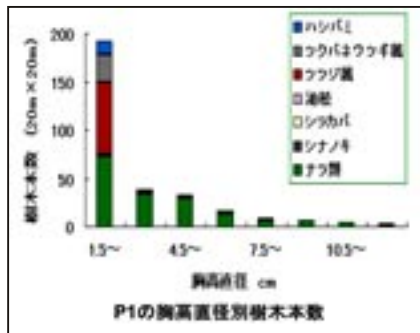
08年の夏におこなったサンプル木調査というのは、調査枠の周辺、枠の外側で、標本木を何本か切り倒して樹高とか太さを測ります。その後切り倒した樹木を管理棟に持ち帰り、1本ずつ、幹と枝と葉と実とわけて、それぞれ重さを量ります。これでナマの重さがわかります。さらに一部は仮乾燥して日本に持ち帰り、日本で完全に乾燥して乾燥重量、炭水化物の重さを求めます。

これで生重と乾燥重の割合がでるので、全体の生重から全体の乾燥重が計算できます。太さと高さを1本1本はかっているの、太さ・高さで重さの関係式を求めることができます。08年夏の伐採調査の非常に大きな成果は、今後当分は直径と樹高を測れば、その木の幹、枝、葉の重さがわかる、つまり、非破壊調査によって1本1本の重さがわかるということです。

●1年間の成長

08年春の1回目と、09年の2回目の調査結果を比べると、1本の木がどれくらい大きくなったかわかります。

まず樹木の種類と本数を太さ別にみると、09年春にP1にでてきた胸高直径1.5cm以上の樹木は合計303本ありました。圧倒的にナラ類が多い。しかも、他のものは細いものだけ、あるいはアブラマツは太いものだけしかありませんが、ナラは小さなものから太いものまであります。特に小さなものがたくさんある。近い将来、たぶんナラの林になるということがわかります。この調査結果をグラフにしました。全体がアルファベットのLの形をしています。L字型の分布は、一般的に発達中の林で

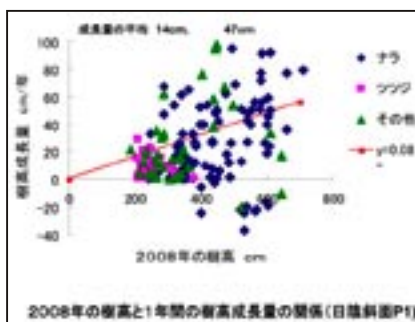


見られます。

P2では胸高直径1.5cm以上の樹木が全部で109本ありました。そのうち108本がトネリコ属で、ニンジンボクが1本だけ。P1だと12cmを越えるようなものがありますが、P2にはまったくありません。しかも3cm未満が107本、つまり細いトネリコ属だけ。P1とP2でずいぶん違うことがわかります。

これをもとにまとめてみます。もともと直径が4.5cm以上だった樹木についてみると、P1では1年間に0.3cm太くなりました。P2には太い木はありません。4.5cmから1.5cmまでの細い木で見るとP1で0.1cm太くなりました。P2も0.1cmとなっていますが実は0.06で少し差があります。樹高の平均は、直径が4.5cm以上であったものは昨年と比べると47cm増えていることがわかる。細い木ではP1が14cm、P2は11cm増えています。

全体としてみると大きなものほどより大きくなっています。このグラフで成長量がマイナスになっているものがありますが、測定誤差と思われる。樹高を測るのは意外とむずかしいので、年によって違う枝を測ったり、枝



1年間の変化 P1 日産斜圃 ナラ類

調査枠	調査区分	調査	樹種	2008	2009	成長量
P1	胸高直径 4.5cm~	樹木数(本/ha)	ナラ	170	180	
			樹種数(種/ha)	5.88	6.75	
			樹高(1.5m)	22.81	24.28	1.47
			樹高(2.0m)	1.91	2.07	
胸高直径 1.5cm~4.5cm	樹木数(本/ha)	ナラ	1290	1800		
		樹種数(種/ha)	5.22	5.52		
		樹高(1.5m)	1.78	1.88		
		樹高(2.0m)	0.81	1.28	0.47	
			樹高(2.5m)	0.75	0.91	

1年間の変化 P2 日産斜圃 トネリコ属本数

調査枠	調査区分	調査	樹種	2008	2009	成長量
P2	胸高直径 1.5cm~4.5cm	樹木数(本/ha)	トネリコ属	98	98	
			樹種数(種/ha)	0.98	0.98	
			樹高(1.5m)	1.28	1.52	0.24
			樹高(2.0m)	0.17	0.17	

先が枯れることもあります。何年も続けていくうちに精度があがってきます。

太さについては、4.5cm以上のものは平均すると0.32cm、細いものは0.12cmで、太いものほど成長していることがわかります。

●植物現存量

これをまとめてP1で08年と09年を比べてみました。ha当たりになおした樹木密度は1,700本だったのが1,800本、少し増えました。植物の現存量、植物の地上部を全部乾かした重さですが、葉っぱは落ちるので除外して、幹と枝を合計すると08年はhaあたり21.41t、09年は24.36tで2.96t増えています。細い方については0.4t増えています。P2は樹木数が2,525本から2,725本、現存量はまだまだこれからどうなるかという感じがですね。

P1の現存量を一般的な現存量と比較すると温帯落葉樹林で300t/ha、サバンナで40t、温帯草原で16tということになります。霊丘自然植物園の場合は36.7t、炭素量に換算するとhaあたり16tになります。1haの土地の上空の大気中に含まれている二酸化炭素の量から炭素量をもとめると14.9tです。霊丘自然植物園のナラの林は、それよりもごくわずかですが多くの炭素をすでに固定していることになります。

●今後の課題

これからいろんな課題があると思いますが、まずはその1、測りつづけること。それから、いろんなところにあるGENのプロジェクトでも同じことをするという。その2は、植物の成長だけでなく種類の多様性を記録し証拠を残すこと。そのために植物標本を作製して保存をする、同時にいろんな植物を楽しみながら活動をつづけていくことが大切です。

【立花】ここ数年私は行っていないので、ちょっとの間にずいぶん緑が復元したなど嬉しいんですけど、炭素の計算までできましたね。上空にある分とはほぼ同じだけの量を固定しているというのはたいしたものです。

●豊かな生態系をもつ先進国として

日本の森林は先進国のなかでは一番たくさんあって、生態系が抜群に豊富



です。植物の種類が多いことが生態系の豊富さの元にあつて、この狭い国に600種類も喬木がありますが、ヨーロッパは全部で100種類しかありません。日本のような生態系の豊富なところは、環境問題でリーダーになる運命にあるんです。なぜかという、複雑なところでみつけた法則は単純なところにあてはめられますが、単純なところでみつけた法則が複雑なところにあてはめるとは限らない。日本が一番生態系の豊富な先進国ですから、自然をどういうふうに維持するのかという議論において世界のリーダーになるべきなんです。ところがいまの日本は教育の方向がずれてしまっていてダメです。

●植物園の意義

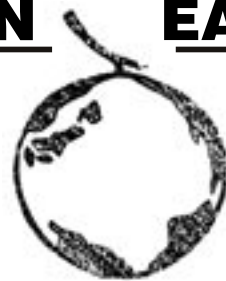
私はずっと植物園をつくってきましたから、霊丘の場合もそこで得た経験をつかって、ちゃんとしたデータをもとに植えていいところだめなところをはっきりさせないといけないと考えました。森林と草原の境目、北緯40度と30度のあいだですね、文化はそこに生まれています。草原と森林の境目には必ず川が流れていて、後ろの樹木を切って家をたてて、前で畑を作る、畑には川の水をひくのが一番やりやすい。ところが残念ながら境目というのは森林を切ったら復元しません。中国南部と朝鮮半島は雨の量も温度もある程度あるのに、もどっていない。種の供給源がなくなってしまったからです。

そういう意味で、緑化をするなら、植物園をつくって、そこで基礎的なことを調べないといけない。植物園はヨーロッパでは大学や学校ができる以前からあって、アカデミックな場所なんです。日本ではレクリエーションセンターみたいに思われていますが、本当はそうではありません。

●地元を大切に

ここは特に森林の境目の場所で、土地の人に聞いたら昔はたくさん茂ってたといいます。植えさえすれば元に戻る。特に高いところと北向きはいける。それは最初からわかっていました。私が考えたのは、最初から大きな植物園の全体の地図に書き込んだわけです。ここは自然のままおいとくとか、ここは南面やから無理だとか。1か所だけ外来種をいれるところをつくった。なぜかという、土地の人に嫌われたら植物園はつぶされるんです。黄土高原で育つものを探しながら、土地の人をうるおすことをやっておかないと、日本人が勝手なことをしているとと言われるおそれがある。やっぱり中国の人に見えるような場所をつくって、いろいろ集めてこないといけない。10年20年ぐらいい間に、土地の人の役に立ち、喜んでもらえるようなヒット商品をつくらないといけない。植物園をうまくつづけるには、そういうものがあつて。私が気になるのは、南面に野生のモモがあります。小さい実で食べられないけれども、これがつかえないかなと。アンズを植えるとうまくいってますね。学校に寄付したりして、経済的に。そういうことも考えたんですが、いまとなればもうその心配はないかなという気もしています。

霊丘がこれだけになってきたというのはまことに嬉しいことです。最初はあの川のところから入っていくのに道もなかった。なんか行って見たら真ん中に小さな池があつてポプラが茂ってるし、上の方には緑があるし、これはいいところだと思いました。水がちよろちよろと流れていって本流の川に合流するところに魚がいた。ということはエサがある。上流で繁殖できるところがある。これはいける。ポプラはものすごく元気がよくて、年に1m以上伸びてる。水があつて土地がいいということです。それからもうひとつ、あそこは岩が露出したところがある。実は、10m以上も黄土が積もったところはむずかしいんです。恒山の上の方に大きなマツが残ってますが、たいてい岩の露出したところ。黄土が積もるとだめだけど岩なら水と温度の条



件があればいけるとにらんでましたので、ここなら育つと。

そこでまず最初に境界線にフェンスをつくった。この山は放牧でかなりやられていました。家畜を入れないようにするには柵をするしかない。立派なフェンスはお金がかかるので、トゲの痛い木を植えた。村の人にも話をして、柴刈りにも入らないようにしてもらおう。こちらの立場を押し付けるのではなく、地元を尊重しながら、納得してもらえたらうまくいきます。

●植物の種類を増やす

昔から千三つといひまして、違うところにもっていても種を1000個播いたら3つぐらいい育つといひます。0.3%ですね。よそから持ってきたものは種を播かないと育たない。種から育てて3代か4代たつとなじんできます。マダガスカルで日本のスギの木を植えて成功したのも、種まいてから30年後です。それまで苗を運んだのは全部枯れた。タイにスギを持っていったのも全部ダメでしたけど、2、3本かろうじて残って種ができたのをとって播いたら全部育ってますね。中国でも同じです。種を播かなあかん。この辺に生えてるコナラですか、それと東北地方のミズナラ。ミズナラなんかは、モンゴルナラ、mongolicaの変種と書いてありますね。だからミズナラを持っていったら育つはず。向こうは雨が少ないからダメかもしれませんが、やろうとすればできないことはない。

これからも霊丘の植物園がどんどん発展してこれからの緑化の基礎になることを非常に期待しております。植物園はお遊びの場所ではありません。日本では誤解している人が多いんですが、非常にアカデミックな場所です。実際にものをやる場所で、理屈でやる場所ではない。だから先ほどの生のデータなんかはこれから利用できるきわめていいデータなんで、これからも応援をよろしくお願いいたします。

微力は無力じゃない！

第16次緑の協力隊に参加して

寺田 奈美（通研電気工業労働組合）

09年春のワーキングツアー報告は今号でおわります。まずは20人が参加した東北電力総連（4/14～21）のツアー参加者の感想です。

今回、私にとって初めての海外。出発日が近づくにつれてだんだん緊張感がたかまり、もうあつという間に出発当日を迎えました。ドキドキしながら仙台空港に到着。でも、事前研修の時すぐにうちとけあい、仲良くなった仲間顔を見てすこしホッとしたのをいま、思い出します。

関係者に見送られ、これから先1週間、想像できないたくさんの期待を胸に、いざ出発。笑顔で「行ってきます」…が、機内では、離陸が怖くて嫌いな私は子どものように悲鳴を上げていました（笑）。これから私の貴重な思い出1週間 in 中国のはじまりです。

私たちが植林活動をおこなう大同市



広～い大地に、アンズもたくさん植えました！

に到着したのは、翌日15日の夕方。北京から大同に向かう道中は驚きの連続でした。自動車・自転車・バイク・バス・歩行者が入り乱れていて、いたるところでクラクションの音。バスの中でハラハラでした。また、山々には緑がなく、荒れはてた土地が広がり、建物も北京とはだいぶ違って、地域格差の現状を垣間見、同じ国でも北京と大同はまるで別世界でした。

4日間の植林活動。正直、実際あんなにたくさん木を植えるとは…（笑）。アンズ500本、ニレ苗1700本、ほかにもアブラマツ、トウヒ苗を植えました。かなりの重労働で、筋肉痛になりましたが、私たちが手伝ったことで、「3日かかる作業を半日で終わられた。」とセンターの方が嬉しそうに言っていたと聞き、目的を果たせた充実感でいっぱいでした。おまけに、4月にこんなに日焼けをするとは…（笑）。私の腕を見たら一目瞭然。立派な勲章になりました。

植林活動を終え、ふりかえてみると、「植林の現実」がみえて、さまざまなことを感じました。

4日間で、想像していたよりもたくさん木を植えたなあと思うのは私だけではないと思います。しかし、木の成長には長い年月が必要で、にもかかわらず

私たちはそのわずか4日しか携わることができなかったともいえると思います。たくさんの木を植えたことで充実感でいっぱいでしたが、植物が育つには厳しい環境下で、その木を世話してくれる人たちの、緑を育てる・つくる・守ることの苦勞を痛感させられました。また、微力ながらも植林活動に協力しつづければ、やがて緑はよみがえると思いました。微力は無力なんかじゃないはずですよ。

他にも世界遺産を観光・ニーハオトイレ体験・パイチューウいっき飲み・中国の奇妙な屋台・初の寝台車・宴会のような食事・〇〇さんのおやじギャグ…どれもステキな思い出ばかり。そして、「たくさんの笑顔」もありました。小学生との交流では駆けよってくる子どもたちと遊び、言葉は通じなかったけど笑顔でコミュニケーション！ 素朴で飾らないそのままの笑顔が最高にステキでした。また、農家に訪問した際も、決して恵まれた環境下ではないのに、そこにも笑顔。道で井戸端会議をするおばあちゃんたちも笑顔。どんなときでも笑顔でいたい…そう思えるほどでした。最終日、思い出がよみがえり、通訳の孫さんの歌を聞き、感極まって涙がぼろり……。

最後になりますが、派遣にあたりご支援・ご協力していただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。そして、ともに過ごした16次隊の仲間は大変な宝物です。「謝謝!!!」

今回の活動は、環境問題を考えるよい機会でした。この体験を同世代の多くの人たちに伝え、今後の活動がよりよいものになってくれればと、つよく願っています。

と風景は一変しました。その後に見る黄土高原に比べれば、まだまだ草木があるというものの、それは日本の風景とはまったく違った乾燥した茶色の大地が広がっていました。

高台から見た黄土高原は、過去千年間に起こった戦乱、森林伐採、過剰な開墾・放牧などにより、植生は破壊され、一時に降る豪雨のため土壌が流失し、一帯の地形は無数の水流が削った

未来の子どもたちのために……

黄土高原緑化協力事業に参加して

安田 岳樹（自治労府職）

春のツアー報告最後をかざるのは、26人が参加した自治労大阪府本部（4/25～29）の参加者の感想です。みなさん、おつかれさまでした。

中国に出発する朝、大阪は強い雨が降っていました。事前の説明会で大同は非常に乾燥していると聞いていたので、日本との環境の違いを出発の時か

ら考えさせられました。

北京首都空港からバスに乗り込み、しばらく走る間は日本の都会と変わらない風景が続きますが、しばらくする

ために溝だらけのような状態になっていました。春には雨が少なく「春の雨は油より貴重」とさえ言われると聞いて改めて大同の環境の厳しさを認識しました。白登苗圃の周辺でさえ、景色はテレビで見たアフリカのサバンナのようなイメージです。キリンやシマウマが走っていても違和感がないんじゃないかと思っただけです。

大同で最初の植樹は地元の小学生たちと一っしょにおこないました。道路の両脇にならんで拍手で僕たちを歓迎してくれ、少し照れましたがそのなかを歩いていき、説明を受けたあとは一っしょに作業です。砂は「サー」、水「スイ」でなんとかつうじます。あらためてここが漢字の国であるということを実感しました。日本と環境こそ異なりますが、子どもたちの笑顔は万国共通です。この子どもたちのためにも、そして未来の子どもたちのためにも黄土高原が緑の大地になってほしいと思いました。

緑の地球ネットワークの取り組みで

黄土高原に森林が蘇るものかと思う人もいます。ほんのわずか5日間の緑化協力で何が変わるのかと思う人もいます。

中国滞在中、ハチドリの一とずくという話を思い出しました。大切な森を山火事から守ろうと水を口に含んではしずくを落とすことを繰

り返したハチドリ、「どんなに小さなことだろうが、いま、自分にできることをやり通すだけだ……」

ひとつひとつはほんの小さな取り組みであっても、その取り組みが広がることによって、その取り組みが続けられることによって、きっと大きな力を発揮するようになるはずだ。

緑の地球ネットワークや黄土高原の



子どもたちの笑顔は万国共通。満面の笑みで記念撮影

緑化に取り組んでいる多くの団体の取り組みによって22世紀になるころには黄土高原が緑の大地になっていることを期待します。



会員総会にお寄せいただいたメッセージのほんの一部をご紹介します。それぞれのご事情のなかから GEN を応援していただきありがとうございます。○会報を読むだけの会員ですが、GEN の会員であることを誇りに思っています。今回の報告資料も読みやすく（困難は次々にあるにしても）、これからの活動に期待し、わくわくしながら読ませていただきました。(O.M)

○皆様ご苦勞様です。会の盛会とネットワークの発展を祈ります。会田さん。残念ですがおめでとうございませう。ブログ楽しみにしていたのに～。(F.S)

○総会の盛会を祈っています。世界経済の危機・インフルエンザ・中国の環境問題等、活動を取りまく厳しい状況下、永年にわたる GEN の活動とその成果に頭が下がります。長年月を要する緑化活動の発展を日中友好の進展を期待します。微力ですが、ツアー体験をプレゼンで PR に努めています。(A.T)

○ご活躍を期待しています。毎号の「緑の地球」では、黄土高原史話をおもしろく拝読しています。「河水澄む」話など。(K.H) (8ページにつづく)

GEN 自然と親しむ会

比良山馬が瀬山で森づく体験・報告

5月24日、恒例となった馬が瀬国有林での里山整備体験は、JRの遅れというハプニングで1時間遅れでスタートしました。今回の参加者は少なめの7名。前にも来たことのある方がほとんどで、スムーズに作業にとりかかり…とはいかず、時間配分を考えて、NPO 自然と緑の方に説明していただいてから、昼食を先にすませることになりました。思い思いにお弁当をひろげ、ほとんど食事をすませたころに白い中型犬が2頭現れました。あまり猟犬らしくも見えないけれど、迷い犬ではない証拠に、首輪にアンテナがついています。作業中も、作業している斜面下の道路を行ったり来たりして気になりますが、間伐ですから気を散らしているわけにはいきません。

少人数のグループにわかれて、印のついた木をノコギリで切っていきます。曲がった木や成長の悪い木、込み合ったところの木。一生懸命育っている木

を切るのは可哀想な気もしますが、人工林は手入れをしないと健康な状態を維持できません。それに、切り倒した時の爽快感は格別です。まだ体験したことのない方、次回はぜひどうぞ！切った木は玉切りにして担ぎ下ろし、皮を剥きます。夏休みにはこの木で筏を組んで、子どもたちが琵琶湖で遊ぶのだそうです。

作業のあと、琵琶湖を見渡す稜線までのぼっていくと、蛍光オレンジのベストを着て銃を担いだおじさんたちに遭遇。さっきの犬はやっぱり猟犬でした。害獣駆除だそうです。人声がすると動物が逃げるといふことで、お話も小声で。琵琶湖の説明をしていただき、稜線を境にササの種類が違うなど、いろいろと興味深いことを教えていただきました。

出だしはちょっともたつきましたが、爽やかな1日でした。

(東川)



自然環境市民大学
1 日体験入学

自然環境市民大学の講座のうち、8月～2月の9講座で体験入学を受け付けています。先着順若干名、1人1回のみ。保険料として300円必要です。

【対象講座】

- 8月8日(土) ツバメのねぐら入り
／京阪観月橋(18時集合)
 - 9月5日(土) 野鳥／南港野鳥園
 - 9月9日(水) 昆虫／平城京跡
 - 9月16日(水) 植物／泉北
 - 9月30日(水) 金剛山の自然／金剛山
 - 10月28日(水) 野生動物との共存
／奈良公園
 - 11月4日(水) 地域の保全活動／富田林奥の谷
 - 1月20日(水) 保全活動／余野川ダム計画地予定
 - 2月17日(水) 哺乳類／箕面鉢伏山
又は青貝山
- ※受講時間は各講座とも10時～15時

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

30分頃(8月8日除く)
※軽ハイキング程度の野外活動です。
●問合せ・申込み：(社)大阪自然環境保全協会(ネイチャーおおさか)市民大学係(〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号室 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 E-mail : office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp)

(7ページからつづく)
○大同では行政挙げての大規模緑化が行われるとの報告をうかがいました。日本では、公私問わないECOスタイル、環境保護活動は浸透していますよね。大同ではどの程度の意識を持っているのでしょうか。本来、行政・大組織が手を回せなかったから草の根の活動が生まれ、始まったと思うのですが、行政がNPOが担ってきた仕事と同等の事をするとなると…。GENの強みや独自性というものを現地で発揮しなくてはならないのかな、と考えました。(A.D)

○高見様、事務局の皆様、お元気でいらっしゃいますか。今は内モンゴルです。最近では1日が過ぎるのがとても早く感じます。雨が少ないのは毎年ですが、今年は例年に比べ砂嵐が少ないです。こちらでは主にソウソウの植林をしていますが、今年はモウコスモモ等の植林を始めました。また、きのこ等も見つかったので、菌根菌や土壌改良効果のあるラン藻、デンプン素材のマルチを使った植林も始めようと思っています。13日は日程の都合がつかず、参加できませんが、どうぞよろしく願いいたします。(T.S)
○環境省の日中協力事業で、大同市に設置されたのと同じプロセスを用いた生活排水処理施設を雲南省大理にモデル設置することになりました。大同の施設は水不足で運用がままならないとお聞きしていますが、今後は大同での経験を吸収させていただき、中国ばかりでなく多くの国で活用できるような良い技術として育てていきたいと考えています。(M.M)